

1000人調査○使える英語教材ランキング

PRESIDENT

プレジデント

毎月第2・第4月曜日発売 2014.6.2号

特別定価 750円

一〇一四年五月二日発行・発売 每月二回 第一・第四月曜日発行・発売

これが日本一のメソッドだ!

「英語」の 学び方

1ヶ月でTOEIC100点up!

ANNOUNCE ITS 5TH ANNUAL AMATEUR SHORT CONTEST. PARTICIPANTS CAN SUBMIT UP TO THREE SHORT STORIES THAT HAVE NOT BEEN PREVIOUSLY PUBLISHED, AND WINNERS WILL HAVE

SHORT CONTEST. PARTICIPANTS CAN SUBMIT UP TO THREE SHORT STORIES THAT HAVE NOT BEEN PREVIOUSLY PUBLISHED, AND WINNERS WILL HAVE THEIR WRITING PUBLISHED IN THE MAGAZINE JANUARY ISSUE. FOR CONTEST RULES, PLEASE VISIT OUR WEB SITE.

Now, I will

study English.

HAVE NOT BEEN PREVIOUSLY PUBLISHED, AND

ウクライナ

実は、ずっと絶えたことがない米露「冷戦」の深層

筆者は最近、「ウクライナ問題で『米ロ新冷戦』が始まるか?」という質問をよく受ける。しかしこの質問は、モスクワ在住者には奇妙に聞こえる。そもそも二〇〇八年八月、ロシアは米国の『傀儡国家』グルジアと一戦交えたばかりだ。それだけではない。米ロの戦いは〇〇年以降、絶えたことがなかった。

○三年、米エクソン・モービルは、当

時ロシアの石油最大手だったユコスを買収しようとした。ペーチン露大統領は、「ロシア最大のドル箱を渡してなるものか!」と激怒。ユコス社長のホドルコフスキイ氏を逮捕させた。

しかしその後、ロシアの縛りである旧ソ連諸国で、〇三年グルジア、〇四年ウクライナ、〇五年キルギスという具合に次々と革命が起きたのである。

これらがすべて米国の仕業であることは、ほぼ確実視されている。その過程はいつもワンパーソン。大統領選や議会選挙で親ロシア派が勝利すると、「選挙に不正があった!」と大規模デモが起こる。デモは、親ロシア派のリーダーが圧力に耐えられなくなり、辞任するまで続くのだ。何とか「トンデモ話」にも聞こえるが、当事者からはミエミエ。革命で失脚したグルジアのシエワルナゼ元大統領は、「外國の情報機関が私の退陣を周到に画策し、野党勢力を支援した」と断言(朝日新聞)。

三年一二月二五日付。また、キルギスのアカエフ元大統領も、「政変では米国の機関が重要な役割を果たした」と語っている(時事通信〇五年四月七日付)。

さらに、産経新聞は〇五年四月二日付の紙面で、キルギスの革命を支援したNPOとして、「フリーダム・ハウス」「國家民主研究所」「国際共和研究所」を挙げ、

これらの予算が「九二年の『自由支援法』に基づき、米国家予算から捻出されている」と指摘している。

さて、ウクライナだ。この国で革命が起ころのは〇四年に続き二回目。無論、ペーチンは「全部米国が悪い」と認識している、三月四日、「西側のパートナーが、ウクライナでこれ(革命)をやるのは初

めてではない」と厳しく非難した。

「米ロ冷戦は起ころか?」という問い合わせの答えは、「米ロ冷戦はずつと前から続いているし、今後も長く続いていく」で立されている。もちろん、それは昔のような「イデオロギー対立」ではない。もつと生々しい「国益」をかけた戦いなのだ。

(国際関係アナリスト 北野幸伯) P

自宅での看取りを支援する「看取り士」とは

宿の養成講座で、自宅での看取りの作法や死生観などを学びます」(柴田さん)

日本看取り士会認定の看取り士は全国数が足りず、四五万人の死に場所がなくなります。このままいいのでしょうか。看取りは英語でデス・ウォッチ。日本人に求められているのは、死を見つめ、死に逝く人を抱きしめて命のバトンを受け取る作法を共有することだと思います

一般社団法人「日本看取り士会」会長の柴田久美子さんがそう語る。看取り士とは、余命宣告を受けてから納棺まで在宅での看取りを支援する職業。尊厳ある年八月二十四日午後二時から東京・新宿区の四谷区民ホールで開かれる予定。この取り組みに共感する企業や医師、介護士、市民やメディア関係者らでつくる実行委員会(委員長・奥健一郎鹿児島大学教授)が主催。看取り士と支援者、市民らが集い、在宅での看取りのあり方などを考える。

柴田さんは外食産業を経て介護の世界に入り〇二年に看取りの家「なごみの里」を島根県に設立。高齢者一人に介護者三人

人の態勢で寄り添う「四時間の介護」と、胃ろうなどを用わない自然死での看取りを実践。また看取り士を養成する一方、ボランティアによる看取りサポーターミュ「エンゼルチーム」を結成し、看取り士との連携による終末期の暮らしの新たなモデルを立ち上げた。柴田さんが言う。

「日本人の八割は自宅で死ぬことを望んでいますが、少子化で在宅介護を支える家族力が不足しています。しかも病院死が多く、人が死ぬところを見たことがない人がほとんど。これでは在宅で看取るのは難しい。全国大会をステップに看取り士の活動を多くの人に知つてもらいたい」(大会は参加費無料。日本看取り士会 0867-285772)